

■□要旨■□

1. 20世紀の成長社会から21世紀の成熟社会へ

これまでの20世紀の成長社会では、ひとつの正解が求められていた「正解主義」から、21世紀の成熟社会ではそれぞれ1人ひとりという「修正主義」へ変化が求められている。多様化、複雑化した成熟社会では、早く正解を見つける「情報処理力」ではなく、知識や情報を組み合わせ、自分や他者を納得させられることが出来る答え(＝納得解)を導き出すことが必要であり、その為には「情報編集力」が不可欠である。

2. 情報編集力(つなげる力)の本質

情報編集力とは、状況によって自分の知識・経験・技術を組み合わせ、さらにほかの人の知識・経験・技術を手繰り寄せて問題解決にあたること。つまり、自分ひとりで解を導き出すのではなく、他の人の脳までも拡張させリンクさせることである。

3. 情報編集力を向上させる為の自分プレゼン術

自己紹介と自分プレゼンは異なる。自己紹介は自分の今の状況など経歴や自分のことを説明するだけである。プレゼンは相手の頭の中に映像が結びつくかどうか。相手の記憶に残るために効果的なのは、最初に自分のことを相手に印象付けるための「つかみ」を取る必要がある。そして大事なものは、ヒアリングにより相手の頭の中にイメージとしてある「物語」や「世界観」を創造して、そこへ架け橋をかけること。相手の世界観を考えずに独りよがりなことを言ってもダメである。

4. プレストの効果的なやり方

まずは相手の意見を褒めること。最初の1～2回はまともな案を出さずに所謂エンジンの空ぶかしをすること。プレストは自分を自己破壊し、化学反応を起こすための効果的な手段である。

5. 「坂の上の坂」世代へ

これから坂の上にもまだ長い人生が待っている時代に必要なのは「会社」ではなく「社会」へ、更には「家族との人生」へ意識をシフトすること。55歳までの間に「社会的なものごとへ」の関心が、ビジネスや社会からの軸からだけではなく、別の視点からも捉えられなければならない。それが新しい行動へと繋がり、これからの生き抜く重要な鍵である。新しい視線の鍵の獲得こそ「坂の上の坂」を上る原動力。そして「坂の上の坂」世代の後半の生き様に「正解」はない。

■□今回の学び ひとことというと■□

価値観が多様化した成熟化社会では自分なりの世界観、人生論、幸福論を持たないと「幸せ」にはならない。「みんな一緒」の時代から「それぞれ違う」時代へ。その時代の変化に即した「正解主義」から「修正主義」にしていかないといけない。

自分や周りの人たちが納得できる「解」を見つけるためには他者とつながるコミュニケーション力を磨き、お互いに刺激しあうことが大切。それにより、人生後半を豊かに過ごす選択肢も見えてくる。



■□感想■□今の状態が“底”であれ、“やま”であれ、今後まだまだ別の“やま”はくるし、それに向けての準備も必要である。きちんと夢を描き、その実現に向かって誠実に現在と向き合うことを改めて考えさせて頂きました。これからの時代は、今までの価値観を相当変えていかないと新しい社会にはついていけない。正解のない時代に「正解を求めろ」という呪縛を解いて、今後の人生のどう楽しみながら夢と方向を考えるとよい機会になりました。まずは一歩踏み出し実践し修正しながら前に進んでいきたいと思っております。